

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分 掌	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
			取組の成果	中間	期末	
1 年 団	規律と節度ある生活習慣を身につけさせる。	・挨拶、時間、服装等の基本的な生活習慣の確立を意識させ、観一生として、責任ある行動を促す。 ・LHRや学校行事などへの積極的な参加を促すことで、協働的な活動へと導く。 ・毎日の清掃や校外清掃活動に積極的に取り組ませることで、公共性や自主性を育む。	・継続的な声掛けにより、基本的な生活習慣の確立や清掃活動にきちんと取り組めた。特にトイレ清掃は丁寧に行えた。 ・学校行事に積極的に参加でき、協働的な活動も行えた。	B A A	B A A	・朝、風や雨が強い日の遅刻が多い。見通しを持ち、早めの行動を心掛けさせる必要がある。 ・服装指導については学年団で共通理解を図り、さらに向上させたい。
	学習と部活動との両立を図らせる。	・スタディパディなどを利用して、生徒個々に時間は管理するものという意識を持たせ、学習習慣の確立を目指す。 ・教科担任、部顧問と学級担任が連携を密にすることで、部活動と学習の両立を実現させる。 ・個人面接や部活動を通じて、健康状態について意識させ、生き生きとした学校生活が送れるように促す。	・スタディパディの提出率が減少しているが、提出できている生徒は学習時間を確保する努力ができています。 ・部活顧問との連携は概ね取れている。両立に悩みつつ、自身で考え努力しているが、まだ模索している生徒もいる。 ・面接については機会をとらえて効果的に実施できている。	C B B	B B B	スタディパディより効果的なものを考える。(小型で持ち運びできるものやプリント形式) ・生徒の現状を共有するなど連携を継続するとともに、ゆとりを持たせることも必要である。 ・成績が伸び悩んでいる生徒に対しては今後も適時面接指導も継続する。
	適切な学科選択・コース選択を行わせる。	・個人面接やLHR、進路説明会等を通じて、進路目標を明確にさせる。 ・オープンキャンパス、ボランティア活動など校外活動に積極的に参加させることで、進路に関する視野を広げる。 ・進路指導部と連携し、個々の生徒の進路選択に適切な情報が伝わる体制を整えることで、視野を広め、自主的に情報を収集するようにさせる。	・文理選択を機に自分の進路についてよく考えることができた。目標が同じ全国の高校生と比較させることで改善点を考えさせることができた。 ・前向きに参加した生徒(オープンキャンパス)や自分たちで探して参加した生徒(ボランティア)もいた。	B B B	B B B	・分野や仕事についての情報を周知することが大切。様々な案内・チラシを効果に活用する。 ・学習への取り組みに時間がかかる生徒もあり、やり方を教師からの提示してやることも大切。
2 年 団	規律と節度ある生活習慣を身につけさせる。	・SHRや学年集会等で機会を捉えて、社会生活におけるルールやマナーを指導することで、規律ある生活を送らせる。 ・学年団会等で、生徒の状況等を共有することで、学年団職員がチームで生徒の指導にあたる。 ・部活動、学校行事などに中核学年としての自覚を持たせることで、積極的な学校生活への参加を促し、精神力や協調性を高める。	概ね実行できている。	B	A	このままでよい。
	個々の生徒に応じた指導を徹底し、学力の伸長を図る。	・スタディパディを活用することで、生徒一人ひとりの生活状況を把握し、家庭学習を促す。 ・個人面談等で生徒一人ひとりの進路志望や学力に応じた指導を行い、目標に向かって計画的に学習に取り組めるようにさせる。 ・三者懇談や家庭連絡等で保護者にも協力を依頼することで、生徒の学力の伸長を図る。	・スタディパディの活用により、生徒一人ひとりの生活状況を担任が知ることができている。 ・個人面談等を繰り返すことで、生徒の学習意欲の向上と学力の伸長を図ることができた。	B	A	このままでよい。
	進路目標を確立させ、目標達成のために具体的な行動を起こさせる。	個人面談、進路LHR、進路説明会等を通じて進路意識を高め、進路目標を明確にさせる。 ・学習検討会等で、生徒の成績や授業等での学習状況を把握することで、具体的な指導方法を共有し、生徒の学習意欲を喚起する。	・進路目標は比較的明確になり、学習意欲も向上している。 ・個々の進路目標を実現させるための、具体的な学習方法の試行錯誤を続けている生徒が一定数存在する。	B	B	学習意欲を更に高めつつ、個々の生徒にあった具体的な学習方法の模索を続けさせる。

「A：十分達成できた ～90%」「B：おおむね達成できた ～70%」「C：あまり達成できなかった ～50%」「D：達成できなかった 50%未満」

分 掌	ねらい PLAN	具体的な取組とねらい DO	評価 CHECK			今年度の課題と改善案 ACTION
			取組の成果	中間	期末	
3 年 団	最高学年であるという自覚を持たせ、模範となる活態度を身につけさせる。	・SHR等を活用して日々声掛けを行い、挨拶・時間の厳守・責任ある言動が取れるよう促す。 ・清掃や奉仕活動を自主的に行うように学年全体で指導する。 ・学習と部活動の両立を図らせることで、心身をバランスよく鍛えさせる。	清掃、時間厳守など基本的な態度はほとんどの生徒が身につけられた。	B	B	遅刻する生徒が一定数おり、団としての声掛けや、学校全体で指導していく。
	個々の生徒に応じた学習指導を徹底し、学力の伸長を図る。	・試験後の面接等を通して授業の大切さを理解させ、主体的に授業に取り組ませる。 ・スタディパディなどを活用し、予習・復習の状況を把握しながら個別に指導し、1日平均5時間の学習時間を確保させる。 ・3ヵ月、1ヵ月、1週間単位で学習計画を立てる習慣をつけさせ、自己分析をしながら学習できるようにさせる。	受験を意識してからは計画立てて学習できていたが、長期的な計画が立てられていないと感じた。	B	B	1年次から長期計画を立てるようせさせ、2年2学期から受験までの計画を学年だけでなく教科担当も含めて指導していく。
	進路目標（自己の将来像）を明確にさせ、目標達成のために最大限の努力をさせる。	・随時面接を実施し、進路目標の明確化とその実現に向けた具体的な学習法を見いだせるようにする。 ・学年全体で進路情報や指導法を共有し、よりの確な情報を生徒に与えることで、安心して受験に臨める体制を整える。	学年全体で一体となり指導している感じが生徒に伝わり、良い方向に動いた。	B	A	個別に進路資料の活用を促したり、1、2年生の時期から意識を高めさせていく。
理 数 科	理数科独自の活動を通して、生徒の知的好奇心や学習意欲を高めさせる。	・1年生特色クラスの科学体験研修や研修合宿を充実させることで、科学分野への興味・関心を高める。 ・2年生海外科学体験研修を実施することで、国際的な視野を広げ、英語運用能力を高める。 ・2年生課題研究のスタートを前倒し、研究時間を確保することで、より深い探究的学習に取り組ませる。 ・3年生課題研究の結果を積極的に校外で発表させることで、主体性・協働性を高めるとともに、科学的探究力を育成する。	・自然体験研修，東京方面科学体験研修を事前，事後指導，ポスター報告が実施でき，効果も検証した。 ・海外科学体験研修は中止となったがオンラインで実施できた。 ・2年生の課題研究は外部指導者から深いと高評を得た。 ・3年生の校外発表を積極的に実施できた。	B	A	・2年間コロナ禍で，本来の形で実施できなかったため，ノウハウの継承が難しかったが，なんとか取り戻すことができています。 ・次年度から，手をかける部分を減らしつつ同様の効果があるような運営に取り組みたい。
	高い進路志望を持たせ、適切な学習に取り組ませる。	・先輩の進路結果を十分把握させることで、高い進路志望を持たせる。 ・個人面接やLHR等を通じて、生徒の興味・関心に応じた適切な進路選択を支援することで、生徒の学習意欲を高める。 ・スタディパディや個人面談等で生徒の学習状況等を把握することで、進路志望を実現するための適切な学習指導を行う。	・先輩の進路を提示し、個々に応じた進路指導をしている。 ・出願が始まり具体的な進路指導の最中である。	B	B	粘り強く最後まで取り組ませよう個々に応じた指導を行う。